

Y22b 日本水ロケットコンテスト2009の開催報告

高木俊暢、竹前俊昭 (ISAS/JAXA)、飯田千里、岩本裕之、小定弘和 (日本宇宙少年団)

水ロケットはペットボトルという身近な素材を使って、子供たちが楽しみながらロケットの飛翔原理を学べる優れた学習素材である。学校の教科書にも取り上げられ、一時期は盛んに学校教育の現場でも取り上げられた。しかし、昨今の厳しい安全管理の基準からみると、取り扱いが難しい面があることは否めない。

その中で、今年11月22日、水ロケットを競技とした初の全国大会が、「愛・地球博記念 日本水ロケットコンテスト2009」として開催された。これは宇宙教育活動の一環として、日本各地にある日本宇宙少年団(YAC)を中心に、一般の参加者も対象にした全国的な事業である。全国14会場で地区代表を選出し、飛翔距離を競う飛距離競技、50m先の的を狙う定点競技の代表選手、合わせて56名の子供たちが愛・地球博記念公園に集った。大会中はほとんど無風状態であり、初期圧力7気圧での最長飛距離は156mであった。しかし、中には後方に飛翔してしまうロケットがあるなど、安全面での課題も残った。

本講演では、水ロケットコンテスト2009の概要と、水ロケットを打上げる際の注意点や、安全対策についての報告をする予定である。